

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193300098		
法人名	合同会社カーム		
事業所名	グループホームかんまち		
所在地	岐阜県飛騨市古川町上町459番地1		
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果市町村受理日	令和4年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2193300098-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和4年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は古民家を改修し、ホーム内も畳敷きで昔ながらの環境を作っています。ホームから見る景色も田畑が広がり落ち着いて暮らして居ます。入居者の方には掃除・家事の役割があり、やりがいをを持って生活しています。また、地域の方や同じ敷地内にあるグループホームの入居者の方と交流が出来ており、笑顔溢れるグループホームです。また、やりがいをもらえるように会社からも資格の推進をしており、職員が積極的に取得出来る環境づくりもしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

古民家を改修したホームの居間や居室は、全て畳敷きである。昔ながらの生活様式をそのまま活かした環境の中で、「その人らしい暮らしの継続」を支援している。新聞でゴミ箱を作ったり、アクリル毛糸のたわし作りなど、職員は利用者がやりたい事、出来る事を支え、感謝の言葉をかけることで、自信と生きがいに繋げている。職員もまた、人生経験豊かな利用者により地域の慣習など学ぶことも多い。コロナ禍ではあるが、感染対策をした上で、徐々に日常を取り戻せるよう工夫しながら支援している。管理者は、地域雇用を優先し資格取得を奨励しながら、働きやすい職場環境作りにも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの立ち上げ時からの3つのおおきな理念を皆が共有できるようリビングに貼りだしてあり、毎朝申し送り時に振り返りをしている。	3つの理念を目に付き易いリビングに掲示し、職員と利用者が共に唱和しながら共有している。職員会議や申し送り時に振り返り、気が付いた事があれば、その都度、理念の実践について話し合い、支援に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の情報を得るため、区長から毎月広報誌を回覧して頂いている。また感染症対策をしながら、近所を散歩し挨拶をしたり交流をしている。近所の方より果物の差し入れなど頂いたり地域との繋がりを作っている。	現在、地域との行事等は自粛をしている。広報紙、回覧版等で地域の情報を把握し、事業所の情報も伝えている。今年は地域のフリーマーケットに参加し、利用者が作った雑巾、毛糸で編んだ小物やバックを販売するなど、利用者も地域との交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	飛騨市介護サポート対象施設として登録している。現在はコロナ禍のため、受け入れは中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度もコロナの感染予防のため、運営推進会議は書面にて開催。行事報告やヒヤリハットなど文章で報告。返信用のアンケートを送付してご意見を頂いている。	運営推進会議は年3回開催していたが、今年度は書面開催としている。利用者の状態、ヒヤリハット・事故報告、行事報告など、文書で報告し関係者から意見を聞いている。議事録は後日持参もしくは送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者からコロナの感染症や介護保険の情報を頂き、分からないことがあれば連絡相談している。また行政主催の会議に出来る限りZOOMで参加している。	市から適宜、新型コロナ最新情報が入り、感染防護具等の供給がある。日常的に連絡を取り合い、困難事例について相談し、助言や指導を受けている。運営推進会議の議事録を持参し、介護保険制度の動向や新たな情報を得る機会となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、入居者の方が自由に出入り出来るよう玄関の扉は開けるようにしている。施設の敷地内であれば、拘束せず見守りしながら安心して暮らして頂ける環境を作っている。	身体拘束廃止委員会を開催し身体拘束防止について職員間で話し合い、研修も行っている。身体拘束の弊害については、外部講師を招いて学習を重ねている。人的配置を整え、職員が目配り、気配りで施錠をしない支援に努めている。	身体拘束廃止委員会を開催し、職員間で話し合っている。具体例を挙げて検討しているが、議事録から拘束についての検討内容を読み取ることが難しい。記載方法を工夫し、報告書としての記録整備に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍のため、認知症実践者研修・初任者研修等zoomにて参加し、虐待の防止について学んでいる。		

岐阜県 グループホームかんまち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族・関係者へ対応できるように制度についての研修会開催あればオンラインでの参加予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にホームの見学をしていただき環境を本人・ご家族に見ていただくようにしている。契約時にも、管理者と計画作成担当者が説明を行ない安心して入居していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染予防もあり、面会時間の制限を取りながら利用者と家族との関わりを持てるようにしている。また、入居者の方の暮らしぶりをご家族様にわかりやすくするよう毎月家族に送付する便りを多めに写真を掲載している。	感染予防対策を徹底した上で面会を実施している。家族との絆が途切れないよう支援することで、利用者の心情を保つことが出来ている。家族の希望は面会時に聞き、訪問できない場合でも、毎月発行の写真入り通信で利用者の様子を伝えており、家族の安心につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表・管理者にも職員の意見が届くよう管理者も毎日現場に入り、代表は毎月のカンファレンスには必ず参加している。提案を言える環境が出来てきたため、職員のモチベーションもあがってくる。	代表がケアマネジャーでもあり、利用者の状態を把握できるよう、カンファレンスに参加している。管理者も現場に入り、職員の意見や要望、提案などに耳を傾け、改善につなげている。時にはLINE等で職員から相談を受けることもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇を正社員・パート関係なく取得してもらっている。また希望の休みも取れるようにし、働きやすい環境を整えている。希望あれば短時間勤務にすることもある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人が受けた研修があれば参加できるように勤務を調整し受講している。会社からも個人個人に連絡が入り研修の推進に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、他のグループホームを訪問して、サービスの質、ケアの向上等に向けた情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族と本人と一緒に面談を行い、生活面や身体面の困りことや不安について細かく聞き取りを行いホームでの生活について丁寧に説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と面談したり、見学してもらいホームの状況や運営などについて細かく説明している。また日頃から電話で連絡も取りあっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との面談及び担当ケアマネからの情報を統合し、必要なサービスの見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや食器拭き、買い物・掃除など本人の力量に見合った家事を職員と一緒にしながら入居者の方とコミュニケーションを図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診などの外出は家族にお願いし一緒に出掛けていただいている。また日用品なども家族に買ってきてもらい本人と家族の絆をつくっている。保つ機会をつくっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人とご家族との関係が途切れないよう感染症対策をしながら面会など行っている。また馴染みの場所へのドライブなど外出支援では隣接しているグループホームの方と一緒に出掛けたりしている。	感染対策をした上で、家族との面会を実施し、美容師の訪問も受け入れている。敷地内にある同法人事業所の利用者と交流したり、近隣の散歩で地域の住民と挨拶を交わしたり、野菜の差し入れを受けるなど、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや共同作業の一緒にいる時間を多く取っていることで入居者同士の関わりを取れるように支援に努めている。隣のグループホームとの交流も行い関わりを増やせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族や関係機関からの問い合わせには柔軟に対応するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人と職員が会話をし、その人の思いをくみ取っている。また寄り添いながら信頼関係を作っている。	個別ケアの際に、本人の興味ある事や望んでいることを聞いたり、テレビ番組や新聞記事を話題に声かけし、思いを受け止めるよう心がけている。新たに把握した内容は申し送りノートに記録し、利用者の望みが実現できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から聞き取りを行い、必要によっては自宅や周辺の生活環境を見たり、他の入居者の方とドライブで訪れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話をしたり、コミュニケーションを取りながら本人の思いを聞き取りをし、また体調面の変化も観察しながらスタッフで共有できるように記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	代表が計画作成者担当を兼務しており、契約当初から家族と面識があり、本人・家族の思いを把握でき、その意見を介護計画に反映させている。	家族を交えての介護計画作成会議開催を目標にしていたが、コロナ禍で見合わせている。介護計画については、面会時や家族同行の病院受診の際に意見交換を行っている。代表がケアマネジャーとして、本人本位の介護計画を作成しており、家族からの信頼も厚い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の要望や発言などを日々の記録に残し、スタッフ間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は感染症のため、外出の行事が立てれていないので、主に室内で行える行事(誕生会など)を計画したり、季節を感じれる料理を一緒に作っている。		

岐阜県 グループホームかんまち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	飛騨市の介護サポーター制度に登録している。また、今年度コロナ対策のため、地域ボランティアの方も受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については家族同行により、かかりつけ医へ受診してもらっている。また2週間に1度訪問看護師が入り、入居者の状態を把握し職員や医師と連携している。	契約時にかかりつけ医について説明している。ほとんどの利用者が従前のかかりつけ医を継続し、家族同行で受診し、往診も受けている。受診の際には、利用者の情報提供書を家族に渡している。月2回、訪問看護師が健康観察を行いながら、適切な医療支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは本人の体調の変化などの気づきがあれば、看護師に報告相談を24時間いつでも出来る体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院へ入院前情報を提供している。退院前に院内訪問し、関係者から情報提供を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合における(看取り)指針についての同意を家族にいただいている。状態により早めに家族や看護師・医師と話し合いを行えるようにしている。	入居時に重度化や終末期についての指針を説明し、利用者・家族の同意を得ている。体調変化時は早い段階で医師を含めた関係者と家族で話し合い、方針を決めている。家族の希望と協力があれば、医師と看護師、職員が連携しながら看取り支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受講している職員が何名かいる。また講習を受けていない職員にも受講をもらう計画もしている。同じ敷地内のグループホームにAED設置してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練のほか、防災協会の方に来ていただき防火機械や消火器の使用方法を再度確認している。施設の周りの消火栓なども確認し安全確保出来るようにしている。	年2回夜間想定を含め、防災訓練を実施している。現在は消防署の立会いはなく、メールや書面にて報告している。各職員で役割分担を決め、責任をもって取り組み、反省会も行っている。備蓄品を点検し、補充や入れ替えを行っている。	防災訓練は、区長と相談し実施している。コロナ禍ではあるが、近隣への防災訓練実施の告知や、地域の防災訓練へ職員が参加するなど、情報の発信や共有が望ましい。地域住民と話し合い、多種多様な災害対策の強化に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを尊重できるよう、今までの暮らしなど話を聞きその人その人にあった声掛けをする。	職員は、利用者の表情や声のトーンからも思いを推測し、誇りを損ねない言葉遣いや対応を心がけている。開閉時の音が気になる扉は開けたままにするが、カーテンで中が見えないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に添えるような暮らしが出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分をうかがい、体操や散歩など無理なく過ごせるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとにタンスの整理をし衣替えをしもっている。また家族が本人の散髪されたり馴染みの美容院に連れていってもらったりと清潔な身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	三食とも手作りで食材も季節のものを中心として提供している。出来るかたには食事の盛り付けや食器拭きなども一緒に行い、家庭的な環境作りをしている。	その日の食事作り担当職員があり、三食共手作り提供している。利用者も出来る範囲で、野菜の皮むきや盛り付けなどを手伝っている。近所からの差し入れや、庭で育てた野菜も食材として活用しながら、行事食やおやつ作りも楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時.15時のお茶の時間以外でも散歩・入浴後などは水分をしっかりとってもらっている。また体調の変化により食事量など把握したい方は記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けをし行ってもらっている。介助の必要な方は職員が対応している。夕食後には義歯の薬剤洗浄を行い清潔を保てるようにしている。		

岐阜県 グループホームかんまち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗など少なくできるようトイレの声掛けをしている。清潔保持出来るようにパットの確認、また排泄用品などもなるべく無駄のないよう確認し支援している。	トイレでの排泄を基本とし、見守りや声掛け、誘導で支援している。布パンツの人もあり、今の状態が継続できるよう細やかな支援を行っている。排泄用品が利用者の状態に適切であるかも話し合っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜やヨーグルト等を提供したり、毎日の体操で体を動かし、自然な排便ができるよう努めている。また散歩や体操の時間を増やし便秘予防の対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回。曜日等は設定せずその日の体調等に配慮しながら、本人と相談して柔軟に対応できるようにしている。また入浴が困難な場合はシャワー浴や清拭で対応している。	入浴は週2回を基本に、利用者の体調に合わせて柔軟に対応している。拒否がある場合は、声かけのタイミングや曜日や時間変更で、気持ちよく入浴できるよう工夫している。職員は、常にコミュニケーションを図りながら、見守りと介助で安全に入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室とリビングへの行ききは自由に行っている。また、居室の空調を職員が調節し快適に暮らせる環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常勤看護師が服薬管理をしている。職員も把握できるように毎朝の申し送りで情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や編み物などその人その人にあった楽しみを見つけ充実した生活ができるよう支援する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ではあるが、外出するときはマスクを付け感染対策をしながら散歩にでかけたり、季節を感じるため、桜見や紅葉ドライブをしたり気分転換できるよう支援している。	地域の感染拡大状況や、利用者の健康状態を見ながら行き先を選び、感染対策をした上で、花見や紅葉狩りドライブ等の外出を支援している。日常は、玄関先での日光浴や野菜の収穫作業で気分転換を図るようにしている。	

岐阜県 グループホームかんまち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望で手元に持っている方もみえる ホームで現金を預かる場合には金庫に保管し出納帳にて管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参してみえる方もいる 希望があれば相手先の都合を考え、電話を使ってもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は鍵をかけずに自由に出入りでき、台所も対面式で調理しながら職員と入居者の方と会話ができる。すべてが畳敷きで自宅にいるような感じで生活できる環境作りをしている。	廊下や居間、居室に至るまで全て畳敷きであり、調度品も和の物が置かれている。窓から季節の移り変わりを眺めることができ、昼間は、ほとんどの利用者が明るく日当たりの良い居間で、編み物をしたり、新聞紙でゴミ箱作りなど、好きな事をしながら寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには一人掛のリクライニングチェアが置いてありゆったりと過ごせる環境を作っている。また疲れた時などは居室へ自由に行き休んでもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から馴染みのものをもってきてもらい自宅として認識できるようにしている。ご家族の写真なども飾り安心できる空間になるよう努めている。	居室にはダンス、エアコン、カーテンが備え付けてある。居室も畳敷きであり、布団を敷いて寝る利用者もある。表札は利用者の目線に合わせた位置に掲げ、好みの暖簾を掛けている。家族の写真や手作り作品を飾り、居心地よく過ごす工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の手すりの高さを少し低く設置し、使いやすいようにしている 居室入り口やトイレにはネームプレートを設置し自室とわかりやすいようにしている		